

ダリア ‘かまくら’ における露心花の発生軽減対策



図1 ‘かまくら’ の露心花(左)と正常花(右)

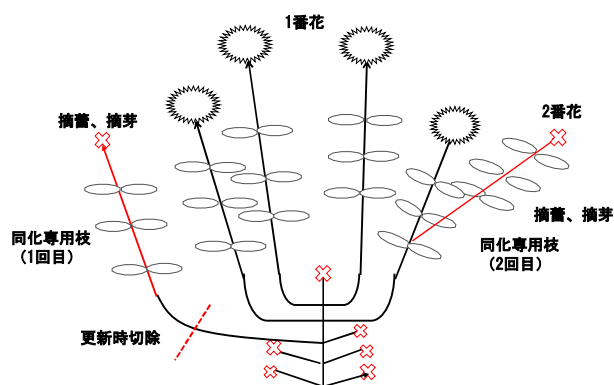


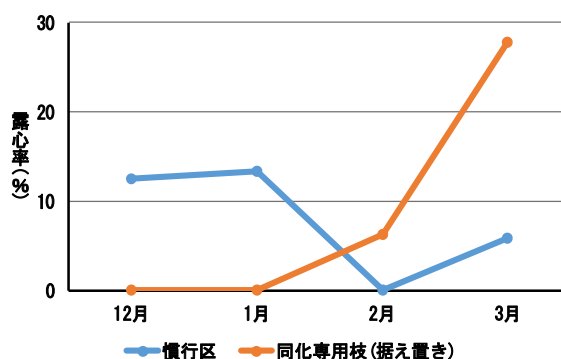
図2 同化専用枝の仕立て方法のイメージ

10月	11月	12月	1月	2月	3月
1番花収穫			2番花収穫		3番花収穫
据え置き			同化専用枝(1回目を据え置き)		
更新			同化専用枝 (1回目)		更新 (2回目)

図3 同化専用枝の更新時期

ダリアの「露心花」は、舌状花が減少し、管状花が露出して発生したものをいいます(図1)。時期や品種によって発生頻度が異なりますが、商品価値が低下するため、出荷できません。そこで、当センターでは露心花の発生軽減技術の開発に取り組んできました。

令和元年度には、CO₂無施用下において、1番花収穫時に摘蕾・摘芽した側枝1本を同化専用枝として、3月末まで据え置く(図2、3)ことで、12～1月の露心率が低くなりましたが、2～3月に慣行区よりも高くなりました(図4)。翌年度は、CO₂施用下における同化専用枝の仕立て方法について調べました。令和元年度の結果から、2～3月の露心

図4 ‘かまくら’ のCO₂無施用下における仕立て方法と露心率の推移(2019年)表1 仕立て方法とCO₂施用の有無が‘かまくら’の露心花に及ぼす影響^{z)}

CO ₂ 施用 ^{y)}	同化専用枝 ^{x)}	舌状花数 (枚)	露心率 (%)
有	更新	301 a ^{w)}	0
	無	241 b	7.3
無	据え置き	261 b	6.5

z) 電照：電球型蛍光灯で16時間の日長延長(明期5:30～21:30)。

y) CO₂施用：2020年12月2日～2021年3月31日。7:00～17:00まで15分間の間欠施用。

x) 図2、3参照。

w) Tukey-Kramerで異なるアルファベット間に5%水準で有意差あり(n=39～57)。

花の発生を軽減するため、2番花収穫時に同化専用枝を更新しました(図2、3)。CO₂施用のみでは無施用の据え置き区と同様に露心花が発生しましたが、CO₂施用下の更新区では、露心花を抑制できました(表1)。

以上より、CO₂施用下の‘かまくら’では、1番花のうち1本を同化専用枝として残し、2番花収穫時に更新することで、冬期の露心花の発生を抑制できることがわかりました。

本研究は、内閣府地方大学・地域産業創生交付金「IoP (Internet of Plants)」が導く「Next 次世代型施設園芸農業」への進化の助成を受けたものです。

(花き担当 山下 真司 088-863-4918)